

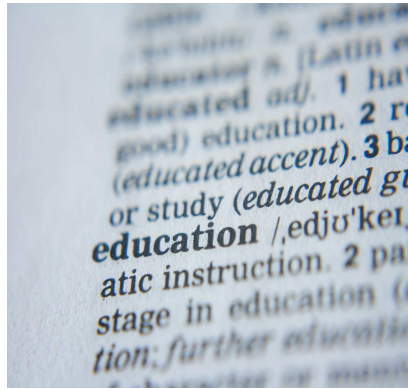
■2020年 高大接続改革！(その3)

～大学入学者選抜改革の概要(大学入学共通テストの英語)～

前回、「大学入学共通テスト」の英語における民間テストの導入について触れました。そこで民間試験のみで実施をするA案と、民間試験と従来のセンター試験の流れを汲む「大学入学共通テスト」の英語を併用するB案で検討中であることを説明させていただきました。前号発行後に新たな展開がありましたので、引き続き「大学入学共通テスト」における英語について言及させていただきます。

文科省案として、「民間試験の受験機会を2回までに制限して、2回のうち高得点のものを採用する」としたことにより、受験生が民間テストを2回しか受けていないことを確認し、さらにそのうち高得点であるほうをセレクトするという作業に関して、民間試験業者の間でシステムを構築してコンセンサスをとることが必要になりました。

民間試験の候補としてピックアップされていた「TOEFL」と「TOEIC」がこの作業・コンセンサスを嫌って、当該入試制度に参加をしないという意思表示を文科省側に伝えてきました。よって、2020年度の英語民間テストの選択肢が少なくなり、物理的・時間的に民間テストのみで実施することが困難な状況になってきています。



以上のことから、文科省案である制限回数に変更がない限り、本原稿作成時点(平成29年7月9日)においては、B案のほうが現実的であると考えられます。したがって、「話す」「書く」といった新たな2技能を見据えた上での対策は必要ですが、従来の「読む」「聞く」という2技能に関する対策も引き続き行っていく必要があります。

長期的に見れば、2020年度から始まる次期学習指導要領では小学校5・6年生では英語が教科化され、小学校3・4年生に外国語活動が導入されることとなります。それだけ子どもたちがこれからの社会を生き抜く上で、英語が必要になることを見越した一連の改革といえます。大学入試を乗り切るだけではない、真の意味での4技能をぜひ早いうちから身につけていきましょう。



■中学学習ポイント(第3回)

前回は引き続き数学についてお伝えしていきます。今回は「関数」です。こちらも方程式のように「比例・反比例」「1次関数」「 $y=ax^2$ 」とレベルアップしていきます。苦手と感じている方は、まず「比例」をとことん学習することをお勧めします。

$y=ax$ が何を表しているのか理解を深めてみましょう。 a の表すものは? a の値はどうやって決まるの? a が決まればグラフが描ける!?など、単に式とグラフとして考えるのではなく、それぞれの文字の意味と役割を理解することが実は一番の近道だったりします。

式中の文字の役割が分かったら今度は立式に挑戦します。関数は変数の x 値が決まると対応する変数 y の値も1つだけ決まる(ここでいう「変数」の意味もぜひ調べてみてください。「未知数」との違いがわかればより理解も深まります)と定義されています。では、どのように y の値が決まっていくのか、ですね。ここで大きな役割を担っているのが比例定数 a なんです。ある時は消しゴム1個の値段だったり、またある時は速さだったりと様々な姿に変化するので、文章から a 、 x 、 y に対応するものを混乱せずに読み取る力を身につけましょう!

中学で習う関数の基本式

比例 $y=ax$

a : 比例定数

1次関数 $y=ax+b$

a : 変化の割合(傾き) b : 切片

関数 $y=ax^2$

a : 比例定数

文字の意味と役割をしっかりと把握しよう!
式もグラフも簡単にかけるようになるよ!!

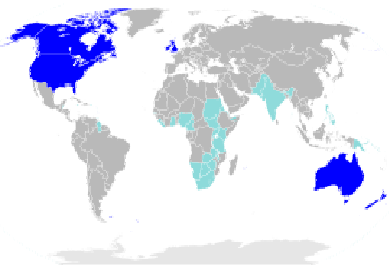
■小学校の英語はこれからどうなる?

2020年大学入試制度が変わることにあわせて、小中高の授業にも変更点が出てきます。なかでも小学生の授業では、英語やプログラミングが必修になります。そこで今回は、英語に関して、現在決まっている内容を取り上げていこうと思います。

小学生の英語は大きく分けて「外国語活動」と「外国語」という2つがあります。現行5・6年生が行っている「外国語活動」ですが、改定後は3・4年生で行われ、各学年、年間35コマの時間割が組まれます。「聞く」「話す」ことが中心で、さまざまな国の習慣や文化を学びますが、正式な教科ではなく成績はつきません。

また、改定後の5・6年生は「外国語」を各学年で年間70コマずつ行います。アルファベットはもちろん、単語や文の構造も学びます。「聞く」「話す」に加え「読む」こと、「書く」ことも意識した授業になります。もちろん正式な教科になるので、成績もつきます。

上記の「高大接続改革(その3)」でも述べているように、従来の2技能(「読む」「聞く」)から4技能(2技能に加え「話す」「書く」)を大学入試にて行なう方向で考えており、長い期間をかけて語学を鍛え、グローバル化に対応すべく人材を育てていく方針で進んでいるようです。



■やる気の出し方のコツ

いよいよ、受験生は「勝負の夏!!」がはじまります。また、夏休みは宿題がたんまり出ます。しかしながら、暑い中「やる気」を出すには、、、だるくて、中々うまく行かないことが多いかと思います。そこで今回は「やる気」の出し方について、お話していきます。

まず大事な事は「すぐに行動・すぐに動く!!」という事です。例えば「夕ご飯を食べてからすぐ勉強する!!」と決め込んでいたけれども、結局「テレビをダラダラ見てしまったり」とか「携帯をいじってしまったり」などの経験はありませんか? その行動は最終的に「やる気」を削いでしまう要因を多々含んでいます。「決めていたのに動けなかった、、、」「宿題を終わらせる時間が無い、、、」「勉強出来なかった、、、」などの「負の気持ち・罪悪感」が生まれ、悪循環を及ぼし「やる気」を削いでいきます。これが癖づくと中々直りません。

ですので、まず、そのように決め込んだのであれば、「即そのように動く」という「メリハリ行動」を癖付けましょう。これは、日々の積み重ねで鍛えられる力です。そして「メリハリ行動」を鍛えることで、「集中力を自由に使い分けできる」ということに繋がり、良い循環を作ることが出来ます。常に「集中している状態」ということは作れませんし、疲れてしまい、やる気をコントロールできません。如何にして「集中力を効率よく使っていかか」ということが、この「メリハリ行動」を鍛えることで相互的に培われます。(8月号につづく)

今月の格言・金言 「苦しんで苦しんで苦しみ抜いた果てにしか、何かは掴めない。結果も出ないし、新しい風景も見えない。」～見城 徹～

今では有名な出版社、幻冬社の創始者で代表取締役の見城徹氏の言葉です。見城氏は自分に厳しい人で、仕事の手帳に3つ以上憂鬱な仕事がないと「大丈夫か?」と心配するほど、仕事に対してストイックに向き合っています。ストイックに物事を進めることは、かなりの努力とパワーが必要です。勉強に関しても当てはまる部分は多々あります。特に苦手な分野と向き合って勉強することは大変ですし、パワーもいりますが、苦しみながらも克服することは、意味あることに繋がることをこの言葉は教えてくれます。